

北海道浮魚ニュース

令和3(2021)年度12号

2021年8月26日

道総研 函館水産試験場

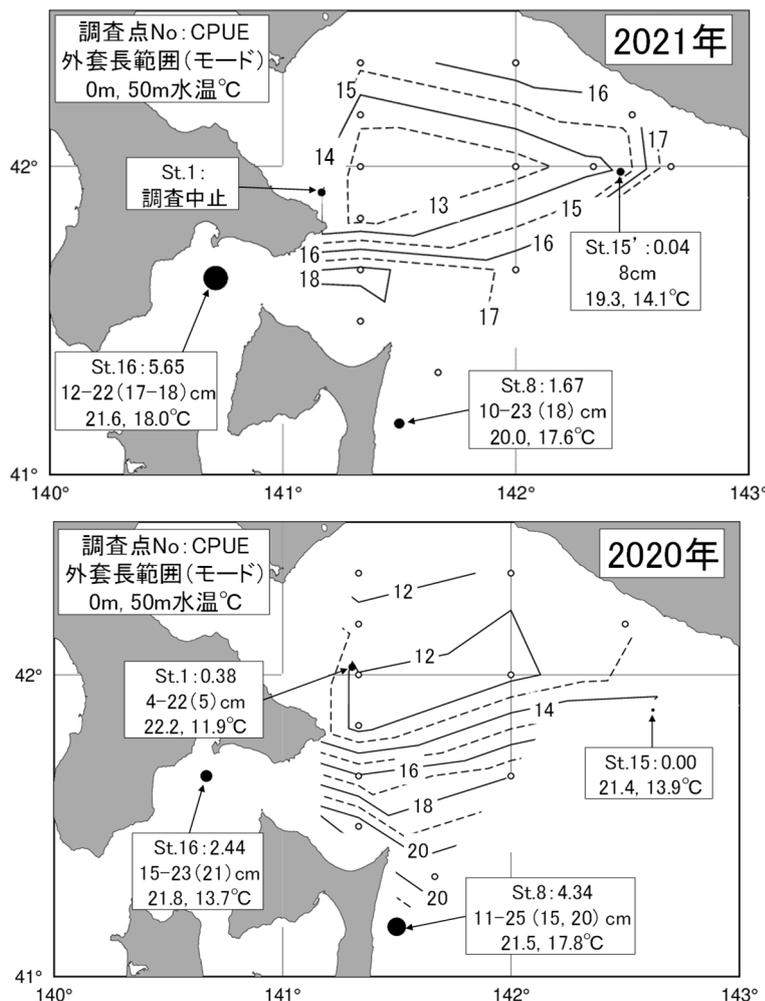
ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎太平洋いか類漁場一斉調査結果

8月16日～21日の期間、津軽海峡～道南太平洋で、函館水産試験場調査船金星丸(151トン、イカ釣機5台、集魚灯20灯装備)により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・スルメイカの分布密度は低く、昨年を若干上回ったが、過去5年平均を下回った。
- ・サイズは昨年同様に小さく、平均値は過去5年平均より小さかった。

1. 水温分布(図1)



2021年の漁獲調査点3点の表面水温は19.3～21.6℃(昨年21.4～22.2℃)、深度50m層の水温は14.1～18.0℃(昨年11.9～17.8℃)でした。

深度50m層の水温は津軽海峡東側～下北半島周辺で高く、恵山岬沖から日高湾に13℃以下の比較的低温の海域が見られました。

また、昨年と同様に津軽海峡東側から日高沖に向かって14～17℃の等温線が伸びていますが、後述のADCPの結果から津軽暖流水の張り出しは弱いと考えられました。

図1 スルメイカ漁獲調査結果と深度50mの等温線図(上:2021年、下:2020年)。●は漁獲調査点で大きさはCPUEに比例、○は海洋観測点

2. 流向流速分布（図 2）

航行中の ADCP 観測により得られた深度 50m 層における流向流速と水温分布（図 1）を照らし合わせると、津軽海峡から東西に伸びる等温線に沿って東へ向かう強い流れがあり、津軽暖流が東側に張り出していると考えられます。しかし、その後、東経 142° 付近で南東へ向かっていることから、2020 年に比べ張り出しの弱い渦モードになっていると考えられました。

道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらもご参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyousokuhou/>

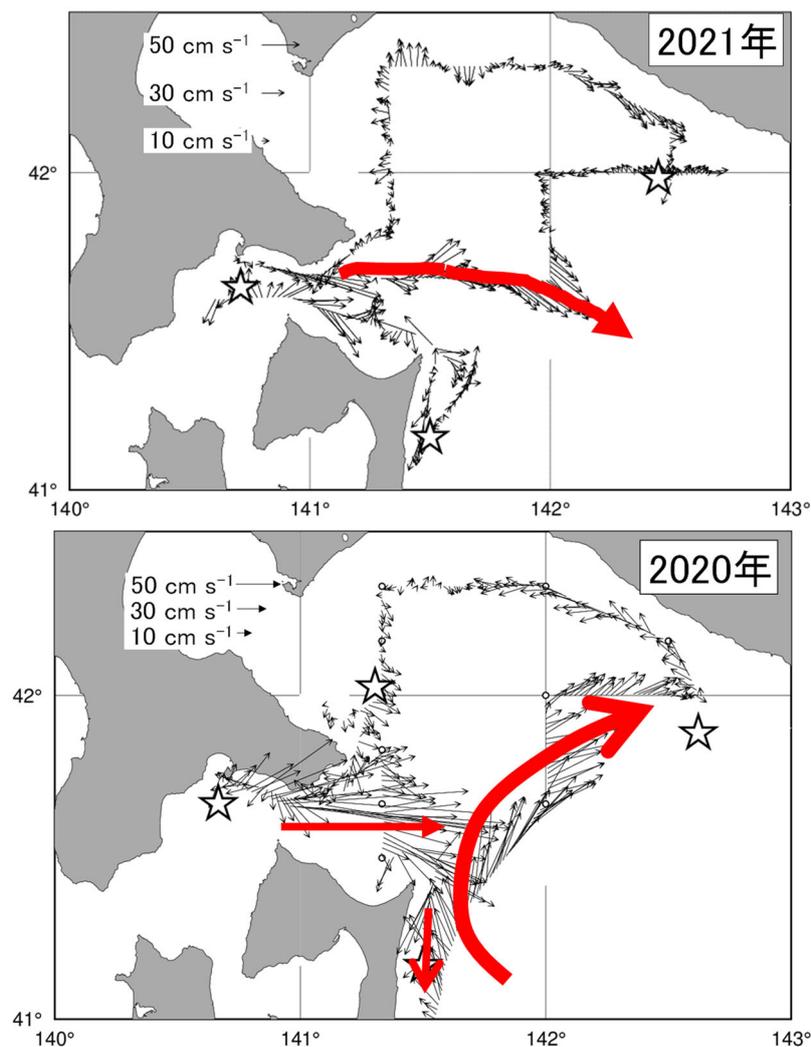


図 2 2021 年（上）と 2020 年（下）の深度 50m 層における流向流速（細い矢印）と津軽暖流の模式図（太い矢印）。 ☆は漁獲調査点

3. スルメイカの分布密度（図 1、3）

2021 年の漁獲調査点 3 点の CPUE（2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数）は 0.04～5.65（2020 年 4 点：0.00～4.34）で、CPUE が最も高かったのは函館沖の St. 16 でした。漁獲調査を行った 3 点の平均 CPUE は 2.45 で 2020 年の値（1.79）を若干上回りましたが、過去 5 年平均値（3.26）を下回る低い値でした。

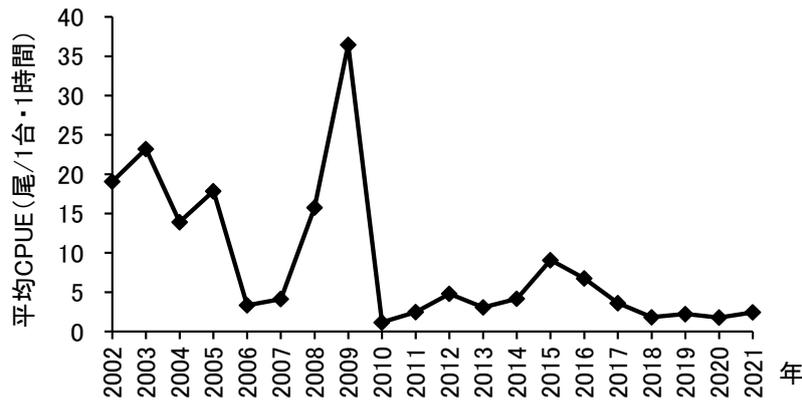


図3 太平洋いか類漁場一斉調査（道南太平洋 8月）におけるスルメイカの平均 CPUE の推移

4. スルメイカの大きさ（図4）

2021年のスルメイカの外套長は8~23cm（昨年4~25 cm）の範囲にありました。最も多く出現したイカの大きさ（モード）は18cm(22.4%)で、単峰型でした。外套長の平均値は17.0cmで昨年(17.0cm)と同様に小さく、過去5年平均（18.6cm）を1.6 cm下回りました。

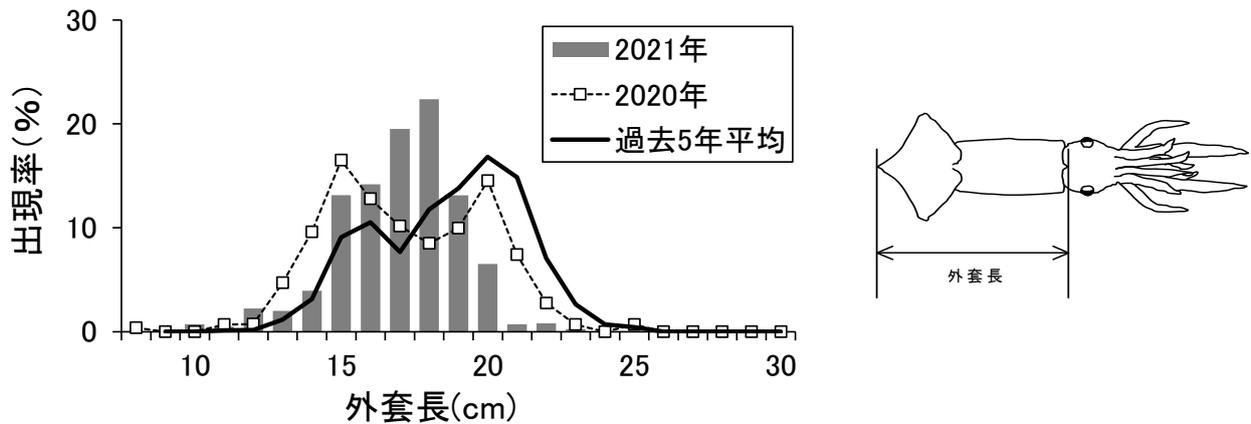


図4 調査海域全体のスルメイカの外套長組成